

(様式第1号)

平成27年度 第4回芦屋市社会教育委員の会議 会議録

日 時	平成28年1月28日(木) 15:00~17:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	議長 安東 由則 副議長 海士 美雪 委員 野村 克彦 委員 村上 健 委員 中俣 久美 委員 辻井 秀彦
欠席者	委員 西田 俊一 委員 谷川 久吉
事務局	社会教育部長 中村 尚代 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課管理係長 長谷川 真弓 生涯学習課管理係 宇田 明日香
会議の公表	■ 公 開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

ア 平成27年度阪神南地区社会教育委員協議会研修会について(報告)

イ 平成27年度兵庫県社会教育研究大会について(報告)

ウ 社会教育関係団体の新規登録について

エ その他

(3) 閉会

2 提出資料

(1) 次第

(2) 芦屋市社会教育委員(名簿)

(3) 参照 社会教育法等(抜粋)

(4) 平成27年度芦屋市社会教育関係団体登録数【別紙1】

(5) 平成27年度12月申請分芦屋市の社会教育関係団体登録申請団体一覧【別紙2】

(6) 阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会(ご案内)

- (7) 芦屋市社会教育関係登録団体研修会（ご案内）
- (8) 社会教育活動に関するアンケート
- (9) すまいるねっとつうしん
- (10) 富田碎花全詩集

3 審議内容

<安東議長>

今回の会議では議題エの「その他」におきまして、芦屋市の社会教育関係登録団体の出前講座の運用に関する問題と課題について考えたいと思っております。また、他の委員さんからもご意見をいただき、来年度の方向性を決めるようにご協力をお願いしたいと思います。

それでは、議題アの平成27年度阪神南地区社会教育委員協議会研修会の報告、議題イの平成27年度兵庫県社会教育研究大会についての報告をあわせて事務局からお願いします。

<事務局：長谷川>

議題アの平成27年11月16日に阪神南地区社会教育委員協議会の研修会がありました。研修会で概要説明があり、その後市内見学で子ども居場所づくりとして「安井小学校」、地域交流・高齢者支援事業としまして「まちC a f e なごみ」に見学に行かせていただき、放課後の子ども達の様子や地域交流の重要性について学びました。議題イの兵庫県社会教育研究大会が、平成27年11月18日水曜日の10時30分から15時10分ごろまで兵庫県民会館において行われました。午前中は、「次世代を担う世代による社会教育」をテーマにした兵庫県立大学防災教育研究センター長補佐 森永 速男氏をコーディネーターとしたパネルディスカッションがあり活発な意見交換が行われました。午後から3分科会に分かれ研究協議がありました。

<安東議長>

出席された委員の方からご意見・ご感想をいただきたいと思っております。

<野村委員>

安井小学校で放課後に皆さんが校庭で元気に遊んでいらっしゃいましたが、小学生の高学年は塾通いでなかなか友達をみつけて遊びにくいと聞きます。遊んでも外で遊びまわるのではなく、家の中に籠ってゲームをしている。ああいう風に校庭で子どもたちがいきいきとしている、しかも大学生が指導をされていて、友達を作るリンクの中心になるといった活動も含めてされているので、なかなか良い制度だなと思えました。西宮市の課長とお話しをさせていただいて、普通、ああいう所で多少危険なことがあると保護

者の方から危ないというご意見をいただくそうですが、自由にさせることで保護者の方の意識も変えていければ、といったことをおっしゃっていました。そういった積極的な試みが良いなと思って聞いておりました。もう1つ、まちC a f eなごみもああいうものができたら良いなと思います。上手く回っていくにはいろいろな要件があると思いますが、1つは中心となってやって下さっていた若者、ああいう方がいるかどうかということ。それから、地域が持っている特性・歴史も含めて立ち上げることは簡単ではないと思います。ああいうふううまく活用されると、高齢者の方も活発になりますし、コミュニケーションもできる。おそらく目に見えないプラス要因がたくさん出来ているのではないかと感じました。

<中俣委員>

私も同じ研究会に参加させていただいて、まず安井小学校ですが、芦屋市も今、放課後子どもプランで8校のうち精道小学校と山手小学校、潮見小学校の3校が放課後事業を行っています。私も安全管理人をさせていただいています。運営をしていく上で大きな課題点があったりするので、芦屋市と西宮市の違いを少し見させていただいて、芦屋市のPTA協議会でも意見や疑問があがったりするので、情報共有として理事会でも安井小学校の例を報告させていただきました。芦屋市はキッズスクエアというのは登録制ですが、安井小学校はそうではないので、例えば登録カードを忘れて、お友達が急に遊ぼうと誘ってくれても遊ぶことができますが、芦屋市は登録カードを忘れて参加できませんし、親が登録をしていなければ子どもが行きたくても行けないという問題があります。そういう点は良いなと思い見学してきました。まちC a f eなごみも地域の高齢者の方がつながっていて、とても素敵な場所だなと感じました。お年寄りの方の中には一人で困っていらっしゃる方や、孤独死をされる方もいらっしゃいますので、地域のつながりで皆さんが元気になったら良いなと思いました。

<海士副議長>

おっしゃっていただいた通りですが、学校のことでも委員の立場によって物の見方が変わりますので、いろいろなご意見があつて良いなと思いました。私自身も子ども達があれば賑やかに遊んでいる姿になかなか遭遇しないので、うれしく思いました。それにはインストラクターの方が責任を持ってきちんとされている、しっかりとされているというのが印象的で、マネジメントする人がいるということは大事だなと思いました。カフェの方は、今、私の他の活動でも居場所づくりということでどんどん増えてきているのですが、行きにくいというのが正直なところ。見えないハードルが高く、皆にオープンにしているけれど行きにくいようです。まちC a f eなごみはお洒落な感じで、カウンターがあるところが良いですね。入ってすぐにカウンターに座ったら、否が応でも中の人と顔を合わせるのと、隣の席の人と話せるという仕掛けは良いなと思いました。

モデル地区として何年間か補助が出ているとおっしゃっていましたが、その後を皆さんがどのように支えていくのか。せっかく良い形でスタートしたなら、補助をもう少し続けるといった何らかの形で継続することが課題だと思いました。良い雰囲気、自分がしている居場所づくりの活動の参考にもなりました。

<安東議長>

兵庫県社会教育研究大会の方は、私は午前の部に参加してきました。今回、大学生が中心になって行っているNPO事業がありまして、その報告をしていただきました。若い人達が行っていることと、社会教育がどう関わっていけるのか。そういう問題提起という可能性を出してもらったということだと思います。まだ新しくて人数も少なく、一部の学生たちが行っているのですが、各地域で行っているいろいろな取組みとどうつなげていくのかということが課題でして、これからどのような関係を持っていくのかという一つの投げかけをされていたのかなと思っています。

午後はどうでしたか。

<海士副議長>

午後は、とんどを住民の手で作り続けてきたというお話でした。地域の方がそういう行事を残すことで、世代間の交流であったり、文化の継承、何より地域の方が力を合わせて一つの行事をするということが大事なのだなと思いました。いつまで続けられるか、次の世代がどう育っていくか。今、上手にバトンタッチをされているということでしたので、羨ましいなと思います。芦屋でもされていますよね。そういうふうは何気ない行事でも続けるとなったら大変です。地域でやろうよ、という気持ちが大事なのかなと思いました。

<安東議長>

これをなんらかの形で私達の地域の事に活かしていくことになれば、と思います。

それでは、議題ウの社会教育関係団体の新規登録について、事務局からお願いします。

<事務局：長谷川>

お手元の資料「平成27年度12月申請分芦屋市社会教育関係団体登録申請団体一覧」「平成27年度芦屋市社会教育関係団体登録数」をご覧ください。

今回3団体から申請がありました。

1の「三条南町子ども会」は地域での世代を超えた交流、つながりを深め、リサイクルの大切さを学ぶ団体です。

2の「西宮友の会 芦屋方面」は月刊誌『婦人之友』の読者の集まりで家庭を研究室に衣・食・住、家計、子どものことを勉強している団体です。

3の「芦屋自然の会」は自然の観察を通じ、自然環境や郷土「芦屋」についての教養を深めると共に会員の健康増進を図り、豊かな生活の創造を目的とした団体です。

3団体とも、総会や役員会を開催しており、総会資料や役員会資料も拝見させていただき、団体の活動が会員の総意で民主的に運営できていることも確認できました。また、社会教育関係団体への登録申請理由もお伺いし、社会教育関係団体としての認識も確認させていただきました。

<安東議長>

ただいまの報告から、ご意見等ございますか。

2番目の友の会というのは全国的な組織の友の会の一部ですか。

<事務局：長谷川>

全国各地にあるようです。

<事務局：長岡>

2番・3番は以前に登録されていましたが、6月の一斉更新時に間に合わず、今回申請されているようです。1番の子ども会は一時活動を休止されていましたが、また再開をされたようです。

<海士副議長>

子ども会の復活は嬉しいですね。今、どんどん減ってきているので。

<事務局：長谷川>

3番も年間費3,000円で、ハイキングや自然観察など活動もきちんとされていますので、皆さんが入りやすい団体ではないかと思います。

<海士副議長>

以前からずっと登録をされていたということですが、特に問題などはなかったのでしょうか。

<事務局：長谷川>

はい。特に問題はございません。

お調べしたところ、3団体とも平成27年6月末までに更新の手続をお忘れになっていた団体です。

<安東議長>

他にご意見がなければ、この3団体は承認ということでよろしいでしょうか。

— 異議なし —

それでは、議題4の「その他」について。来年度の方向性と芦屋市の社会教育関係団体の出前講座の運用に関する問題点と課題について考えたいと思います。

12月にワークショップをしました。その中で大きく2点の課題が出てきましたので、先に報告をさせていただきます。1つは出前講座に関するのですが、芦屋市には社会教育関係団体がたくさんあります。いろいろな人に参加していただいて、自ら教育するという教育活動を盛んにしてもうらおうという大きな目的があって、社会教育関係団体の登録があります。しかしながら、それが十分に活かされず、内に籠って自分たちだけで活動をしている団体もあるようです。せっかく社会教育関係団体として登録してもらい、その資源があるのならば、それをどう活かしていくのかという大きな課題が長くあったわけです。資源をつなげていく仕組みづくりという課題があり、前年はマップの制作をして活動を紹介し、つなげる試みをしました。十分な成果が見えず、もっと積極的に活かしてつなげていくことができないかという意見が出ました。その一環としまして、今回団体にアンケートを取りまして、自分たちの活動を出向いた先で展開、紹介していただけますかといった質問をしています。つなげていける仕組み作りをするということで、先ほど申し上げた出前講座ということをやってみようではないか、という意見が出ました。その経緯と進行状況を事務局から説明をお願いします。

<事務局：長谷川>

1月12日付で社会教育関係登録団体にアンケートを送付しております。回答に関しましては2月19日に開かれる研修会に持参していただいても良いので、全ての回答が集まっていますが、設問の1で「協力は難しい」と回答する団体が多い中、幾つかの団体からは「協力できる」「検討してもよい」という回答をいただいています。委員の方には、どのように社会教育関係団体による出前講座を行っていくかご意見をいただけたらと思います。

<安東議長>

他の自治体では、ホームページで紹介をされているところもあるようです。どういうふうにご利用しやすい仕組みを作っていくのか、大きな課題としてあると思いますが、ご意見がございましたらお願いいたします。

<辻井委員>

出前講座ということ自体が、具体的にどうすれば良いのか、どんな内容でどういう段取りでやっていけば良いのか、その辺が分かりづらく、それがハードルになっている団体も中には隠れているかと思います。まずは出前講座と似たような経験を持つあるいはイメージのつかめている団体がやっていくとしても、興味はあるがハードルが高くて慣れていない団体も、できるだけ参加して慣れていく。これは理想論となりますが、どなたかコーディネーター役の方が、団体の特徴などをヒアリングして推進の手助けをするような形で進めていければ、ちょっとしたハードルが消えていくのではないのでしょうか。まずは慣れていない団体から始めて、慣れていない団体にはできるだけ参加して理解してもらうという形で進めていけば良いのではないかと思います。

<安東議長>

何かこういった活動をしている団体をご存知でしょうか？

<野村委員>

芦屋川カレッジは期ごとに登録をしていますが、その中に同好会があります。その同好会ではいろいろな活動をしています。例えば音楽の同好会などは定期的に養護老人ホームを訪問したり、絵手紙の会では作品をプレゼントしたり、そういう活動は行っています。個々の団体が自主的にやっていますね。

<事務局：長岡>

今、考えているのは、職員が出向いて講師をする出前講座というのはいろいろな市で行っていると思いますが、芦屋市でも行っておりまして、その市民版として考えております。職員の場合、それぞれの部署にどういったことができるかという内容をまず出していただいて、それをメニュー表として広報紙やホームページに掲載しています。直接担当の部署にお申し込みをされる方もいらっしゃいますが、生涯学習課が窓口となって、コーディネートとまではいきませんが、日程やメニュー以外のご要望があればお伺いをして、担当部署が可能であれば応じるといった形で行っています。社会教育関係団体の中でも、出前講座を利用されたことのある方はイメージが分かっているかと思えます。ご利用のない方にはイメージが伝わりにくくアンケートへの回答に戸惑われた方もいらっしゃるかもしれませんが、自分達が行っている活動の中で、要請があれば出向いてできることがあるかということをお伺いしているつもりです。協力できるのであれば、具体的にどういったことができるかをお尋ねして、それを元にメニュー表を作り、市職員の出前講座と同じように、市民の方に希望する内容をお選びいただいて、生涯学習課が窓口となり取り次いでいく、というふうに考えています。会場の確保や準備はお申込みいただいた方がするという基本は、市職員の出前講座と同じで良いかと思

います。

社会教育活動というものをしなければいけないと分かっているけれども、どういふふうにすればよいか分からないという団体も多くあるかと思います。こういった出前講座を行うことで、社会教育活動に参加していただけることにもなりますし、活動の輪が広がって会員の増加にもつながるのかなと考えています。利用される方にも、講師となる団体の方にも、上手く伝えることができるかどうかが鍵になると思います。イメージはそういった形で考えております。

<安東議長>

需要と供給をマッチさせる中継ぎという形ですね。

<事務局：長岡>

市の職員との間でやっているのと同じことを、社会教育関係団体との間でできれば良いなというのが元々の発想です。

<海士副議長>

人材バンクというのをよく他所でもやっていますが、その団体版かと思います。やはりそれぞれに課題があって、登録をしたのに何も言ってこないだとか、いくら待っても出番がないだとか、登録している意味がないと思われるかもしれませんし、登録団体自体にまず意識を持っていただくということが大事かと思います。ではこういった仕組みにしていくのか。多少、生涯学習課が営業をしなければならないと思います。ある程度、行き先もみつけてあげないといけないし、何でも良いというのではなく簡単なマニュアル、ルールも作らなければいけないです。また、それに掛かるお金のこともしっかり書いておかなければならない。例えば講師料は出せんだとか、大阪で登録していたものには1回行っていただいたら3,000円というものもありました。料金は、依頼をしたグループが支払う。交通費が出ますだとか、もちろん無料でも構いませんが、かなりメンテナンスが必要ですね。講座にできないような活動もありますし、全部が全部登録は難しいと思います。

<野村委員>

このアンケートを送付してから、出前講座というものがどういったものかご存知ない方も多くいらっしゃると思いますので、問い合わせがありましたか。

<事務局：長谷川>

そういった問い合わせは、今のところございません。

<野村委員>

例えば「協力できる」と回答した中にはどういった団体がありましたか。

<事務局：長谷川>

山岳や将棋，コーラスなどの団体から回答をいただいています。

<野村委員>

実際は口頭で，研修会などできちんと聞かれてから考えようという団体が多いのではないのでしょうか。

<事務局：長谷川>

まだ50通も回答が返ってきていません。PTA協議会やコミスクなどは難しいかと思えます。社会教育関係登録団体ですよという意識付けも兼ねまして，全団体にお送りしました。

<海士副議長>

例えば，学校やコミスクなど大きく横につながった団体は，自分達が出向くことは難しいかもしれませんが，申し込む側としてはありかと思えます。社会教育関係団体同士の交流も含め，利用する側の団体も社会教育関係団体の中から選んでもらえたら良いですね。

<事務局：長谷川>

放課後の安全な居場所づくりを目的に，あしやキッズスクエアという事業が始まっています。実施中の小学校では，体験や交流活動の場としていろいろなプログラムが行われていますが，こういった活動の場に社会教育関係団体に関わることができれば良いと思います。

<中俣委員>

29年度までに8校全部実施されるとおっしゃっているので，今のプログラムでは落語家の方に依頼をしたり，芦屋大学の方を呼んでモノづくりをして下さったり，いろんな団体がキッズスクエアの放課後授業に来て，子ども達と遊んで下さっていますが，さらに市民の方と触れ合えたら一保護者としても本当にありがたいです。

<海士副議長>

ネーミングは考えた方が良いでしょうね。

<事務局：長谷川>

はい。何か良いご意見がありましたら、頂戴したいと思います。

<安東議長>

先ほどコーディネートというお話が出ましたが、上手く調整してくれるだとか、ノウハウを教えてくれる人がいらっしやればよいのですが。

<事務局：長岡>

今はまだ仕組みが出来ていませんので最初は生涯学習課でするつもりですが、どれくらいの反響があるのか、将来的には社会教育関係団体のみではなく、芦屋市の大学など、こういうことが出来ますというものがあればメニューを作ってみる。お申し込みをいただく方も組織立ったものだけでなく10人から15人集まれば、と考えています。先ほどおっしゃったように社会教育関係団体にお申込みいただいても構いませんし、キッズスクエアでも利用できたら良いと思っております。広がりはあるかと思いますが、事業を行う間に修正は必要になってくるかと思えます。

<野村委員>

具体的にピックアップをして実際に例えば10の団体からやってみる、というのはどうでしょうか。

<事務局：長岡>

今回、「協力できる」という回答をいただいている団体はそれほど多くはないと思いますので、まずは「協力できる」とおっしゃっていただいた団体がモデルになるかと思えます。

<野村委員>

こちらも意識的に動く必要があるかもしれないですね。

<海士副議長>

ある程度は成功事例にならないと、いきなり失敗では。確かなところというか、顔が見えている団体に、野村委員がおっしゃったようにモデル的にいくつかやってみてもらえばいいですね。

<安東議長>

場合によっては保険をどうするのかといったことも生じてきます。初めはそういった点も用心してやらないといけないと思います。モデルみたいなものを作っておかないと

難しいと思います。

<中俣委員>

学校や幼稚園に地域の方がお手伝いに来て下さっているのは、生涯学習課を通して出前講座の方がいらっしゃっているのでしょうか。例えば幼稚園の凧作りであったり、遠足の補助で登山会の方が付いて来て下さったりだとか。そういうことは市を通してではなく園の先生が直接交渉をされているのですか。

<事務局：長岡>

何かきっかけはあったと思いますが、個別のお付き合いだと思います。

<安東議長>

個別の付き合いですと狭くなってきますので、皆さんに見えるような形にして利用しやすいようにするというのが1つの大きな目的だと思います。

<事務局：長岡>

先ほど野村委員が芦屋川カレッジのいろいろなクラブの中でも個別にされているとおっしゃっていました。他の社会教育関係団体の中でも同じようにされているところもあるかと思いますが、そこだけではなく、全体に広げていくのも1つの目的だと思います。

<安東議長>

それが社会教育関係団体の意義でもあります。

<野村委員>

芦屋川カレッジの講師で大阪大学の佐藤先生という方がおられます。脳の研究をされている方ですが美術にも非常に造詣が深く、芦屋川カレッジに美術に関する同好会がたくさんありますが、その方達を集めてやったことですが、例えば展覧会でふつうは100点くらいの絵をばっばっと見ていきますね。だいたい2時間くらいで終わる。そうではなく、作品1枚1枚を、時間をかけて深く追究していくのです。あなたはこの絵を見てどう思いますか、私はこう思いますと、1つの絵に関していろいろな意見があります。佐藤先生はいろいろな作品を深く追究され、いつの時代に作家がどういう意図で描いたかをお調べになっている。その話を聞くと非常に面白いのです。そういう見方はあまりしませんので、学友会で受講者の募集をかけたところ、100人近くが集まりました。まず先生に説明をしていただいて、次の段階ではグループに分かれて1点1点の作品について研究してみよう、そしてその次には脳がどう反応をしているか、先生はそこに興味があるようです。そういうことをカレッジの中だけでやっていますが、もう少し広く、

市民の方に発表できる場があるのではないかなと思います。こういった形のコミュニケーションが社会教育関係団体を通じてできれば、いろいろな輪が広がっていくのではないかなと思います。

<安東議長>

社会教育関係団体がこういった催し物をやるので来てくださいと、呼びかける形でも良いと思います。

<事務局：長谷川>

決めごとがいろいろあるかと思いますが、「協力できる」といった団体をモデルとして少しずつ広げていければ良いと考えています。

<事務局：長岡>

この会議の中で進捗やご相談をさせていただきたいと思います。

<安東議長>

他の自治体でもされているところがあるかと思いますが、その事例なども調べてみる必要がありますね。今回は、芦屋で来年度行っていただいて、その報告と意見をいただくということでよろしいですか。

ワークショップではもう1つ課題が出てきました。海士委員からご説明をお願いいたします。

<海士副議長>

先日は一緒に話し合ってくださいありがとうございました。せっかく社会教育委員になったのだから何か動こうよ、と2年程前に話が出ました。会議でいろいろと意見を言うのも大切ですが、外に出たり、何か動いて芦屋に貢献できることはないかということでマップ作りということをしてみたのですが、私達としては実感として捉えることができました。そこをどう社会教育関係団体の皆さんに活用していってもらうのかというところまで残念ながら思いが至らず、そのままになっていたのですが、見られている方は見られていたとは思いますが。前の会議で意見が出ましたが、このマップを更新していくのではなく少し違うアプローチの方が良いのかなということで、この間は集まって話をしました。私達も芦屋のことを知っているようで知りませんし、実際に地域、現場で活動していらっしゃるという方と、何か社会教育委員として寄り添ってできることがあるのではないかなということも含めて、できればいろいろな所に行ってお邪魔をしない程度に話を伺ったり、一緒に活動したりすることも良いなという話になりました。各関係団体の施設だけでも、例えば体育館に行き市民の方がどう活用されているかという話

を聞いたり、実際に汗を流されているところを見学させてもらったり、そこから今度は自分たちに何ができるのかということを考えていくというのも1つあるのかなと思います。関係団体へのヒアリングや施設見学ということも話には出ました。そこから発展させて、地域の中で活動をされている、特にネットワークをたくさんお持ちで実際に長年活動をされているコミスクというの、分かっているようで実態というのなかなか分からない。話を聞く機会も見学に行く機会もないので、コミスクから勉強をしたいという話になりました。村上委員ともご相談をしなければいけません、知っている所からまずは行けたらなと思います。

誤解をしていただきたくないのは、私達、社会教育委員がコミスクの所へ行って指導をすとかですね、そういう立場ではございません。むしろ教えていただいて、地域の中でどなたがどういった動き方をしているのかということを見たりお聞きしたりして、そこにプラスして私達に関わることによってより活動が広がったり深まったり、そこまでできる力量があるかはわかりませんが、可能性はあると思います。まずは施設見学とも考えましたが、実際に活動をしている芦屋の中では一番大きな力となっているコミスクのことを勉強させてもらったかどうか、ワークショップで意見が出た次第です。来年度、村上委員のご協力を得て見せていただけたらなと思うのですが、村上委員はどう思われますか。

<村上委員>

潮見コミスクは文化とスポーツの団体が集まって、月1回の幹事会を行っています。そこで23団体の役員が話し合っています。大きな行事として1月には小学校の作品展と防災事業として餅つき大会と豚汁を出します。100円だけいただいて、お餅は食べ放題。だいたい500人くらい来られる大きな行事です。もう1つは運動会のために小学校の清掃を行います。溝から全部掃除をしますので、3時間くらいはかかります。コミスクとしては何かあれば私のところに連絡が来ますが、ほとんどは各自で活動を行っています。3ヶ月に1度はコミスク連絡協議会があります。

<海士副議長>

それは他のコミスクもだいたい同じような感じですか。

<村上委員>

コミスクによっていろいろと違います。潮見は外国の方が非常に多いので、国際ひろばという日本語教室を、1週間に3回くらい行っています。後、金管バンドは潮見にしがありませんし、最近では和太鼓クラブができました。

<海士副議長>

そういった話を伺って、自分でやっていらっしゃることでも、もしかしたら一緒にできることがあるかもしれませんし、外からの目線で意見をまとめて、例えば抱えている課題の一助になることがあるのかなと思います。実践活動の中に社会教育委員も入るべきかと思い、入れてもらって一緒に考えることができるのかなというくらいのイメージでいます。今お話を聞かせていただいただけでも、それぞれのコミスクの特徴もあるかと思いますが、先ほど餅つきのお話がありましたが100円だけいただいても、全部のお米代はどうされたのですか。

<村上委員>

完全な赤字です。補助金と自主運営費がありますので、それらを組み合わせて毎年やっています。餅つきには杵と臼が必要ですので、これは高浜の自治会の方が来て下さっているのです、その方に謝礼が必要になります。

<海士副議長>

自治会にお礼が必要なのですね。

<村上委員>

人にも来ていただいていますし、いろいろな物品をお借りしているので、それらを含めて支払っています。

<事務局：長岡>

コミスクによって変わっていて、逆にコミスクの中に自治会さんが会員として入っている所もあります。

<海士副議長>

そもそも入っている団体の形態が違うのですね。そういうことはとても興味深いです。

<事務局：長岡>

最初は同じだったかもしれませんが、成立した年度も違いますし構成されている方々も違いますので、徐々に変わって違いが出たということがあるようです。

<海士副議長>

地域の特性が反映されているわけですね。そういう点で考えると、ピンポイントで芦屋のこのエリアがこういう形でやっているということは、こういう人が多いのだということが反映されているわけですね。ある種コミスクの活動をきちんと聞かせてもら

ったり見せてもらったりすると、だいたいエリアの特性が分かるわけですね。

<村上委員>

潮見コミスクはだいたい32, 3年になります。ですが実質, 住民はコミスク活動がどういったことをしているかあまり分かっていないですね。毎年, コミスクのさまざまな活動を書いたチラシを配布しますが, そのチラシもどれだけ目を通してもらっているか。見ていただいてもコミスク活動をしようかという方もほとんどおられないですね。

<野村委員>

コミスクの会員の方は何名くらいおられるんですか。

<村上委員>

300名くらいです。野球やサッカーなどのスポーツ, 文化など全部合わせたらそれくらいになります。

<野村委員>

年齢はどれくらいですか。

<村上委員>

年齢は5歳くらいから上は70過ぎまで。

<野村委員>

真ん中辺は少ないですか。

<村上委員>

フットサルをされている方が3, 40代ですね。私もバドミントンをしています。平均年齢は60近いです。野球部も人集めが大変になっていますし, サッカーも潮見だけでは形成できないので浜風と合同でしています。

<野村委員>

潮見地区で延べ人数が300名といたら少なくはないんじゃないですか。他のエリアからするとけっこうな方が参加されているのではないのでしょうか。これは潮見小学校校区とみたらよいですか。

<村上委員>

はい潮見小学校校区です。潮見小学校校区は南芦屋浜も校区に入りますので, 浜風の方

は少なくなっていますが、潮見は人が増えています。

<海士副議長>

人口の移動もはっきりしてきますね。

<村上委員>

今までは潮見コミスクとしての防災活動をしていましたが、3年前から潮見地区としてコミスクも加わって、3月に年1回防災活動をしています。

<安東議長>

コミスクがある意味では公民館的な、地域の中心となっているんですね。大きな都市では区や公民館があってそこが中心となるのですが、芦屋には公民館が1つしかありませんので、コミスクが地域の代表的な活動をされているのですね。

<野村委員>

あの辺りは新しいまちなのでしっかりした集会所があるんですよ。

<村上委員>

今年、防災訓練はお年寄りが多いということで、南芦屋浜で行う予定です。今の潮見地区も皆さんお年を召して、われわれがコミスクに入った時は皆さん30代でしたが。

<海士委員>

ということは、ずっと最初の方が続けているということですか。

<村上委員>

そうですね。私も今年で14年ですかね。今まで潮見コミスク30数年の内、会長になった人は私を含めて4人目です。他のコミスクも同じ顔ぶれです。

<安東議長>

コミスクとして共通の課題は、後継者といますか、どう継続していくかということでしょうか。

<村上委員>

そうですね。コミスクは9団体あり、3ヶ月に1度幹事会を開いていますが、皆さん意見が活発に出てほんとうにコミスク活動に熱心です。

<安東議長>

そういう熱心な方の頑張りがないと回っていかないという課題がありますね。

<海士副議長>

今聞かせていただいただけでもいろいろと分かることがありますね。聞かせてもらって、見させてもらって、というところから始めてそこから何ができるか。次の月ぐらいですかね。そういった方向で来年度どうかなと提案をさせていただいています。

<安東議長>

皆さん、こうした活動案はいかがですか。

<野村委員>

おもしろいと思います。勉強にもなりますし。僕は特に、先ほどおっしゃった潮見地区の外国の方が増えていることで、教育の問題などいろいろな所に影響が出てきていますので、関心を持っています。1つの所を集中して勉強をさせてもらおうと他の所も理解しやすいですよ。

<海士副議長>

その代わり、会議以外の日だとか、いろいろなコミスクにお願いしたりということになるかと思います。1年間でどれくらい行けるかは分かりませんが、向こうの都合をお伺いして、行ける人が何人かで行けたらいいなと思います。来年度の私達の活動の方向性としてどうでしょうか。

<安東議長>

芦屋の社会教育の一番の軸であり、それが中心となっていていろいろなことが動いていくと思いますので、それがどういうふうな活動をしており、どういった課題があるのかということをお勉強させていただければと思います。

他にはどうでしょうか。基本的には先ほど申し上げた2つを中心には思っていますが、これからこの会議でこういったことを検討していきたいというふうなことがありましたら、自由にお話しをしていただければと思います。社会教育というのは幅が広いものですから、全部というのはなかなか難しいです。図書館は図書館で、公民館は公民館で協議会がありますので、全体でどうのこうのというのは難しいのですが、その中で何ができるかということを考えていく中で、今回、2つのことが今出てきました。

<辻井委員>

非常に大きな話ですが、各コミスクの話でもありましたが、自治会も含めて後継者問

題が共通の大きな課題として出てきております。中長期的な目線でその問題解決のために情報を整理したいです。具体的な対策案や根本的な仕組み作りを探究する等、少しずつ始めていけたらいいのかなと思いました。難しい課題だとは思いますが、一番大事な事だとも思います。

<安東議長>

全部が全部ボランティアというのも難しいと思いますので、その辺もどういった仕組みを作っていくのかは難しいと思います。

<海士副議長>

コミスクでいくつかお話を聞いたら、きっと最大の課題だと思いますので、はずせないのははずせないですね。

<辻井委員>

自治会であっても、コミスクであっても性質は似ているといえますか、力のある人、熱心な方が引っ張って行って、他の方はそれにおんぶに抱っこでついて行っている。意識改革といえますか、その辺を第三者のこちらが促していくのか、いろいろな意見を議論するのは長い目で見れば価値があることだと思いますので、お願いします。

<安東議長>

草の根民主主義といって、皆でやるというのが一番基本であってアメリカではボランティアなどが盛んですが、なかなか日本で難しく、やる人がやって、それに頼っている部分があります。ほんとうは自分達でというのが自治の精神ですから大事なのですが、日本ではお仕着せというのがありましたので、そこが打破できないところです。その辺もコミスクさんの話を聞きながらちょっとでも考えていけたら良いと思うところです。

先程2つ出ました、出前講座を中心としてどのようにつなげていけるのかということを試みとしてやってみる、その為にはモデル事業などを探しながら行っていくというのが1つと、コミスクさんというのが芦屋市の社会教育の中でも中心的な存在であって、見学などをさせていただいていろいろなことを勉強させてもらう。来年度は、この2つを中心にしながら進めていき、その中で見えてきた問題や課題なども考えていくということで動き出してみようと思います。明確なスケジュールはありませんが、やりながら考えるといった形で進めさせていただければと思っております。

続いて、事務局から研修会の案内について説明をお願いいたします。

<事務局：長谷川>

研修会のご案内をさせていただきます。2月19日金曜日に猪名川町で「阪神北地区

社会教育委員協議会第2回研修会」が開催されます。この日、社会教育関係登録団体の研修会と重なっております、できれば委員の皆様にはアドバイザーとして社会教育関係登録団体の研修会に参加していただきたいと考えております。

<安東議長>

委員の人も一緒に話し合いをするのですね。

<事務局：長谷川>

昨年度の研修会のアンケートでは、他の団体がどういった活動をされているのか聞きたい、交流会の時間をもっととってほしいというご意見がございましたので、今年度は午前と午後にそれぞれ団体の代表の方1名に、15分ほど活動の報告をしてもらう予定です。その後、30分ほどの交流会に委員の皆さんにアドバイザーとして参加していただきたいと考えております。2月19日金曜日に午前の部は10時、午後の部は13時30分から市役所東館3階で行います。

もう1つ、兵庫県教育委員会事務局社会教育課より照会がありましたのでご意見がありましたら、2月10日までに長谷川までお願いします。

<安東議長>

以上ですべての議題は終わりました。他に何かございますか。

<長岡課長>

今年度の社会教育委員の会議につきましては、本日で最終回となります。皆さまの任期はあと1年ございますが、中にはご事情により今期限りで交代される方もいらっしゃいます。社会教育委員でなくなっても、変わらずご協力をお願いします。引き続き委員として活動いただける方には、今後とも様々なご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。今年度はありがとうございました。

<安東議長>

他に何かございますか。特になければ本日の会議は終了とさせていただきます。お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。